

教育指導課便り

～つながり合い、共に学びをはぐくむために～

函館市教育委員会
学校教育部教育指導課
平成24年12月10日発行
VOL. 10

学力向上プロポーザル授業

平成24年12月4日（火）に、函館市立戸倉中学校、函館市立鍛神小学校を会場に、「平成24年度学力向上プロポーザル授業」を開催しました。

～小学校算数科～

- ① 学年・単元名
第5学年「分数と小数、整数の関係を調べよう」
- ② 授業者
函館市立鍛神小学校 海野 優 教諭
- ③ 参観者 70名超
- ④ 提案内容

- 3つの「学習活動モデル」
 - ・小学校5年間で学習した数概念を確かめたり、付加したりすることができる活動。
- 3つの「学び方モデル」
 - ・入門期における具体物の使用から段階的な指導を踏まえた、数直線などの抽象的表現の活用。

⑤ 参観者の声

- ・子ども一人一人に応じたきめ細かな指導が行われ、理解が深まっていた。
- ・既習事項を活用するとともに、数直線の利用により、知識の定着が図られていた。
- ・学び合いや教師の支援によって考えが深まった子どもが見られた。
- ・問題解決的な学習の流れがしっかりとしていた。
- ・自力解決の場が保障され、小交流も効果的に行われていた。
- ・適用問題の結果から多くの子どもが理解していることがわかった。
- ・丁寧なノート指導がなされていることがわかった。
- ・指導と評価の一体化、個への支援の在り方を見ることができた。
- ・視聴覚教材が有効に活用されていた。

など



～中学校数学科～

- ① 学年・単元名
第2学年「三角形と四角形～いろいろな三角形の証明～」
- ② 授業者
函館市立戸倉中学校 中山 央 教諭
- ③ 参観者 30名超
- ④ 提案内容

- 2つの「学習活動モデル」
 - ・既習事項と関連した課題や教材の工夫。
 - ・見通しをもった学び。
- 「学び方モデル」
 - ・学びを見つめる経験。

⑤ 参観者の声

- ・作図の方法が正しいことを既習事項を十分に活用し、証明する道筋が明確であった。
- ・授業者と学力向上プロジェクト委員会の組織としてのねらいがバランスよくミックスしていた。
- ・自力解決から集団解決への工夫がなされていた。
- ・第1学年の学習内容を第2学年の学習での根拠として証明に生かすことができていた。
- ・自分たちで課題を選択する場面を設定していた。
- ・証明という比較的難易度が高い内容に子どもは必死にくらいついていた。
- ・考える時間を十分に取ることができていた。
- ・学び合い活動等を通して、多くの子どもが根拠を確認しながら証明できているように感じた。
- ・子どもの発表を教師が丁寧に取り上げ、対応していた。

など



教育方法研究会

「平成24年度学力向上プロポーザル授業」開催後、引き続き、函館市立鍛神小学校において、「平成24年度教育方法研究会」を開催しました。

全体会における平成23年度の標準学力検査の分析結果についての説明の後、小学校、中学校それぞれの部会にわかれ、『学力向上プロポーザル授業』について、小グループによるワークショップ型の研究協議を行い、提案内容である『学習活動モデル』、『学び方モデル』を中心として、公開授業の成果と課題について、70名超の参加者による積極的な研究協議が行われました。

